

# 稲WCS & そばの二毛作で作期分散と収益増加の両得

稲作農家 2 戸  
(村上市、経営規模120ha)

朝日粗飼料生産組合

肥育農家 1 戸  
(村上市 肉用牛80頭程度)



- 中山間地の稲作農家 2 戸で水稲110ha、そば16ha生産していたが、稲刈り作業が集中し困っていた。



- そばの前作で、作期分散と二毛作ができる稲WCSの生産に取り組んだ。



- 市外から稲わらを購入。稲わらの高騰。
- 堆肥の還元圃場の不足。



- 稲わらの不足分を稲WCSに置き換え、地域で稲わら収集も開始した。
- 堆肥を構成員の圃場に還元した。



稲WCSのために導入した機械を活用し  
主食用米の稲わらを収集できた

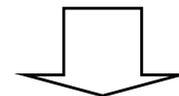


- 作期分散ができ、収益も増加
- 堆肥の活用で肥料費の削減
- さらに、イノシシ被害のあった主食用米の圃場で稲WCSを作付したら被害が減少

稲WCS、稲わら、堆肥散布



給与方法 肥育中期に稲WCS給与割合を調整。  
(サシの入りへの対応)



- 飼料費が 1 割削減
- 粗飼料を地域内で確保
- 堆肥を全て還元できる見込み
- さらに、肥育成績 (サシ) の下振れなし

